

中間報告書（平成 23 年度）

提出者 秋津 元輝

提出年月日 2012 年 5 月 2 日

【プロジェクト名】

和文

コミュニティ・中間圏研究会

英文

Research Group on Community and Intermediate Sphere

【メンバー構成】

研究代表者 秋津元輝

幹事 猪股祐介

メンバー 秋津元輝、森本一彦、川端浩平、中田英樹（明治学院大学特任助教）、猪俣祐介、網中奈美江、中山大将、平井芽阿里、山本達也（日本学術振興会特別研究員）、越智正樹（現琉球大学専任講師）、柴田悠（日本学術振興会特別研究員）

【ねらいと目的】（600 字程度）

親密圏と公共圏の特徴を併せもった中間圏という領域を設定し、そこを両圏の特質が揺れ動きながら相互作用する社会空間と考える。コミュニティと呼ばれる集合体はその代表的な対象となる。コミュニティは近代社会研究のなかで再発見され、その否定と肯定が多様な脈絡において繰り返されてきた。本プロジェクトではコミュニティを、近代における万能の処方箋と考えるのではなく、形や性質を変えながらも存続し親密圏と公共圏を結びつける普遍的な圏域として設定し、その生成、展開、特質を明らかにしつつ、親密圏／公共圏の再編成過程におけるコミュニティ＝中間圏の意義について考察する。

研究方法としてはフィールドワークによってえられた具体的な事例を通じて課題にアプローチする。各メンバーは自らの対象フィールドにおいて、親密圏とコミュニティとの間、および公共圏とコミュニティとの間の揺らぎを考察するのにふさわしい事例を選別して素材とするが、他方で合同調査を実施して、事例の共有と相互の認識のズレの確認をおこない、次世代研究者らに共同研究体験の場を提供したい。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等

調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等

その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

第 1 回コアプロジェクト研究会（2011 年 4 月 28 日 文学研究科）

報告者：秋津元輝

テーマ：「コミュニティ・中間圏研究 関係の生成と転化」

第 1 回研究会（2011 年 5 月 6 日 農学研究科）

報告者：秋津元輝

テーマ：「最終成果執筆にむけたフレームについて」

第2回研究会（2011年5月26日 農学研究科）

報告者：猪股、中山、平井、越智

テーマ：「最終報告書の作成にむけた構想 その1」

第3回研究会（2011年6月30日 農学研究科）

報告者：1. 周維宏

テーマ：「中国農村のコミュニティを考える」

2. 川端浩平

テーマ：「ホームタウンのホームレス—安心安全のまちづくりの二つの意図せざる結果」

第4回研究会（2011年7月14日 農学研究科）

報告者：平田、柴田、網中、山本

テーマ：「最終報告書の作成にむけた構想 その2」

第3回コアプロジェクト研究会（2011年7月28日 文学研究科）

報告者：秋津元輝

テーマ：「残余あるいはアリーナとしてのコミュニティ・中間圏」

第1回調査（9月5日から9月16日）

調査者：秋津元輝

調査地：タイ国バンコクおよびチェンマイ周辺農村

調査内容：タイにおけるインテンショナル・コミュニティに関する資料収集

第4回研究会（2011年11月28日 文学研究科）

報告者：1. 中田英樹

テーマ：「家族再生産労働と観光産業労働—世界遺産都市グアテマラ・アンティグア市での先住民女性を事例として」

2. 秋津元輝

テーマ：「取りまとめの方向について」

第5回研究会（2012年1月23日 文学研究科）

報告者：1. 山本達也

テーマ：「音楽空間が可視化する共同性—チベット難民社会に関する一断章」

2. 中山大将

テーマ：「日本人コミュニティから帰国ネットワークへ—サハリン残留日本人の永住帰国運動」

第6回研究会および共同調査（2012年2月27日～3月1日）

研究会（2月27日～28日）

報告者：1. 芦田裕介

テーマ：「モノをめぐる親密性と公共性—農業機械と人との関わりからの考察」

2. 平井芽阿里

テーマ：「本土在住の沖縄県出身者のコミュニティ」

3. 越智正樹

テーマ：「非伝統社会における地域開発への当事者集団の形成」

4. 猪股祐介

テーマ：「満州移民の再集団化と公共圏の再編成—岐阜県郡上村開拓団を事例として」

5. 柴田 悠

テーマ：「多世代コミュニティの活性化条件—国内事例の分類と比較から—」

6. 網中奈美江

テーマ：「コミュニティにおける「生の保証」として生成する農業—日本の CSA を事例として—」

7. 渡邊拓也

テーマ：「中間圏の変容：＜共＞から＜社交＞へ—バヴァルダージュ空間を中心に」

共同調査（2月29日～3月1日）

現地での調査研究者と合流して、沖縄本島北部農村において短いフィールドワークを実施した。

【成果の概要】（800字程度）

1. 今年度は最終成果物となる書籍の作成を念頭において、研究会の開催を中心に研究活動を展開した。中間圏という、ありふれた用語ながらも新しい可能性をもった概念を設定し、そこから親密圏・公共圏の特徴をあぶり出してみようというのが私たちの研究アプローチの根幹となる。その観点を研究メンバーに浸透させるために、研究代表者による趣旨説明をおこなった。その後はメンバーが順次報告おこない、全部で6回の研究会の間に、各自2回ずつの報告をおこなった。その結果、出来上がった成果本の構成は以下のとおりである。

『震動するコミュニティ —中間から親密圏・公共圏の動態をみる—』

秋津元輝「親密性と公共性のせめぎあい—変容のアリーナとしてのコミュニティ—」

渡邊拓也「中間圏の変容：＜共＞から＜社交＞へ—バヴァルダージュ空間を中心に」

* * *

越智正樹「普遍と特殊の間の「当事者」たち—ネット原告団と地元の実態—」

川端浩平「ホームタウンのホームレス—地域社会の安心・安全のとりくみにおいて生じるジレンマ—」

森本一彦「混住化する自治会における共有林」

* * *

網中奈美江「農業を媒介として生成するコミュニティ—日本の CSA を事例に—」

芦田裕介「モノと人の関係の再編—農業機械と人の関わり方の変遷—」

猪股祐介「満州移民における公共圏の構成と農村合理化：青年団運動と戦後開拓の連続／断絶」

* * *

山本達也「演奏空間から考える共同性—チベット難民社会に関する一断章」

平井芽阿里「コミュニティの再編成と地域社会—沖縄県宮古島の祭祀組織を事例に—」

中田英樹「多文化グアテマラ現代社会と先住民女性—家庭内再生産労働と観光産業での伝統織物生産労働との関係の再検討から—」

* * *

柴田 悠「多世代コミュニティの活性化条件—国内事例の分類と比較から」

平田知久「Internet Cafe Made Us Realize Our Dreams and Potential?—マニラにおけるインターネットカフェの事例から」

中山大將「日本人コミュニティから帰国ネットワークへーサハリン残留日本人の永住帰国運動」

2. タイ国および沖縄において、若干の調査研究を実施した。

【通信欄】

(事務局記入欄)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	(千円)	実績額